

### 目的

従来下水道計画検討プロセスとは異なった新しいアプローチとして、厳しい地方財政を前提とした投資可能額を設定し、新しい手段の活用を検討したうえで、どのような下水道運営（施設建設及び維持管理等）をめざすことができるかを提示する。

### 手段(例)

#### 効率的整備手法の徹底的な採用

- 下水道クイックプロジェクトの各種技術のパッケージ採用
- 設備の海外調達

#### 効率的な維持管理手法の採用

- 超長期間の包括委託

#### 民間の技術力等の積極的な活用

# 「コストキャップ型下水道」の調査フロー

## 1. 未普及地域解消問題に関する課題の整理

ハード面に関する問題点

+

ソフト面に関する問題点



課題整理

## 2. 課題解決のための方向性検討

現状の手法・事業スキームの課題

+

発想の転換

- 柔軟な建設目標レベル
- 明確な管理目標レベル
- 民間活力の大胆な活用

課題解決の方向性

- 効率的な整備・管理手法の立案
- 法令遵守のあり方(構造基準等)
- 投資可能金額を明定した上での民間活用

等

## 3. ケーススタディの実施

### 3-1. 準備

① 資料収集・自治体の汚水処理整備・管理方針確認

② 目標下水道整備区域の想定

### 3-2. 財政検討

③ 現状把握  
(汚水処理事業の整理)

④ 財政状況把握  
(将来予測、経営方針策定)

⑤ 投資可能額検討  
(将来予測、資金調達方法の検討)

### 3-3. 整備・管理手法検討

⑥ 既往整備・管理手法による  
下水道整備区域の把握

⑦ 新整備・管理手法による  
下水道事業実現可能性等の評価

⑧ 下水道整備範囲シナリオ別の比較検討  
(財政検討にフィードバック)

3-4. 財政状況を踏まえた新しい下水道整備・維持管理モデル